

かんきょう 言取言方

第5号 令和3年8月5日

諏訪学区環境保全委員会
発行 総務広報部会

kankyosuwa@gmail.com

はじめに

昨年5月26日の候補地発表から2度目の夏を迎えました。9月5日は茨城県知事選挙です。新聞報道によりますと日立市は現在、全庁的な内部検討を進めており、受入可否を慎重に最終判断するそうです。

今回は7月2日の第8回環境保全委員会の内容と、この1年の広報誌の歩みを紹介します。

※7月の出来事

2日 第8回環境保全委員会
(各部会からの調査発表と意見交換会、今後のスケジュールについて)

7月中も各部会では調査、研究、議論を重ねました

第8回環境保全委員会で出た願い、意見、声

- ・造るのであれば、施設建設や搬入道路利用によるマイナス影響を限りなくゼロに近づける施策を最優先に行い、住民不安を解消してほしい（ゼロをプラスにする地域振興は次の話です）
- ・工事中はもとより建設後も住民の安全安心が保たれるようにしてほしい

各部会からの強調点（様々な思いがあり複雑な心境だが、もし造るのであれば）

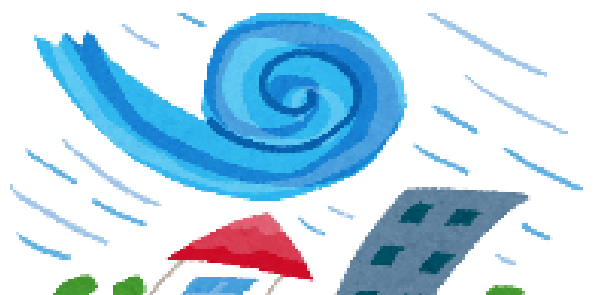
施設・ 環境衛生 部会	・ 自然災害（大地震、大津波、集中豪雨、土砂災害など）が必ず想定されているか ・ 原子力事故（電源喪失、避難指示など）による施設の無人化と業務停止時の対策はされているか これらを想定した危険予知と施策を公表してほしい
道路 交通安全 部会	・ 新設道路を造ってから施設建設工事を始めてほしい ・ 工事期間中は工事用大型ダンプ、トラックは諏訪神社前、梅林通りは通らないでほしい
地域振興部会	・ 造るのであれば「郷土の誇りは保たれた」と住民が実感できるような施策を積み重ねてほしい

緊急補足

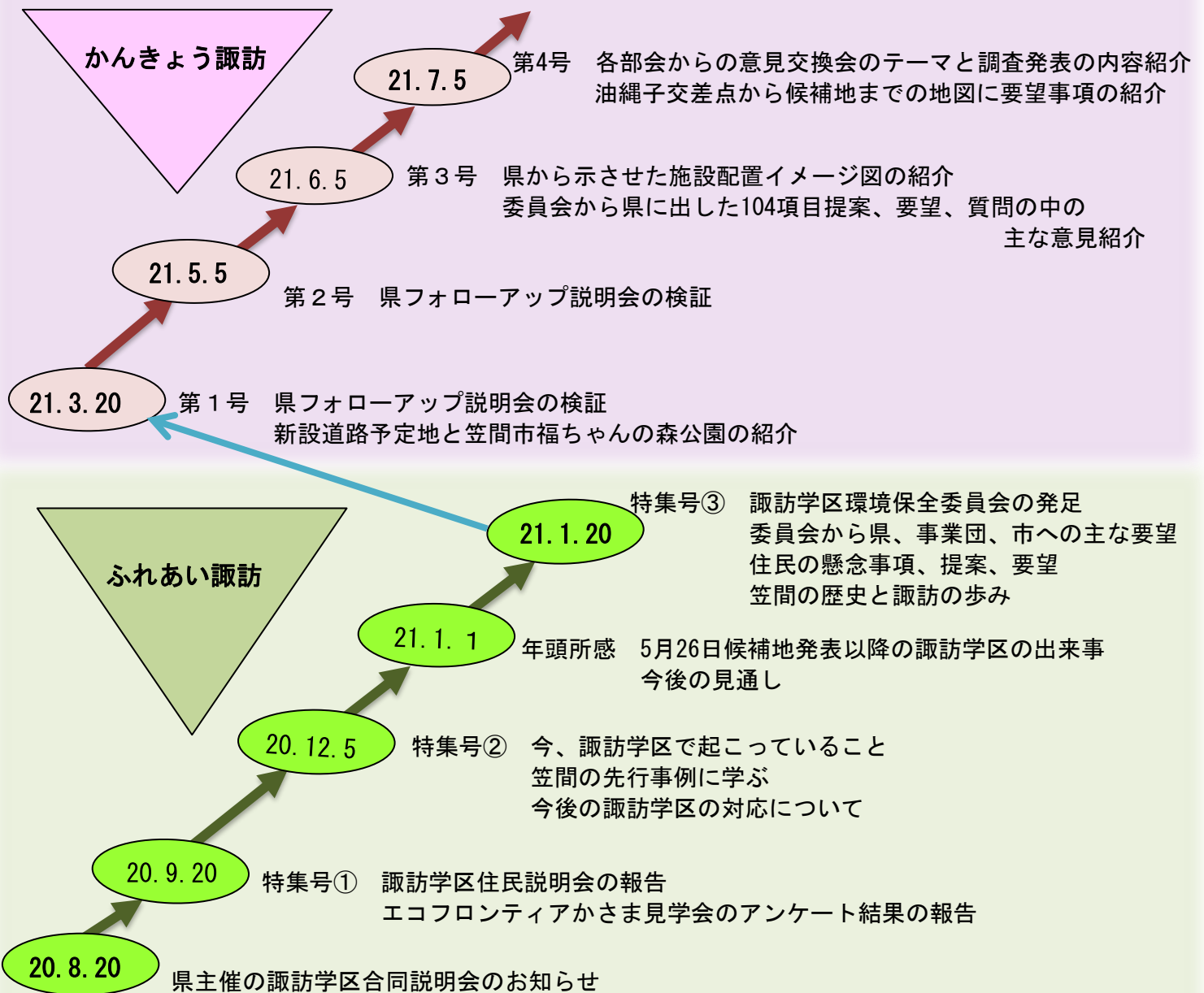
静岡県熱海市の土石流を見て、不安な気持ちになられた住民のかたも多くおられます。

造るのであれば、県には引き続きこの不安を解消する具体的な施設と丁寧な説明をお願いします。

そして、施設を造る前に住民との合意の証である4者協定（県、県環境保全事業団、日立市、諏訪学区）を早期に締結し、住民の不安解消窓口が有効に機能するように重ねてお願いします。



この1年の広報誌の歩み



編集後記

候補地に近いAさんは「採石場周辺は子どもの頃から慣れ親しんだ場所なので気にならない日はないよ」、梅林通りのBさんは「工事車両は本当に通るの？今でもダンプが通ると怖いのに」と呟かれました。

住民にとっての最優先課題は施設を造ることで生じるマイナス影響やリスクを限りなくゼロに近づけることです。信頼は、施設や搬入道路で最も影響を受ける地域住民の不安を丁寧に解消して頂くことで醸成されます。

造るのであれば、地域の住民に愛され、環境にやさしい循環型社会（ゼロミッション）施設になってほしいです。

そのためには関係者全員に、明治から大正時代にかけて「ある町の高い煙突」のような志の高さと覚悟が必要と存じます。環境都市宣言している日立市にふさわしい施設とは何か？令和の時代を生きる私たちに問われています。

